

表紙によせて

大作 晃一

私が子供のころ、きのこ狩りの記憶はそれほど多くない。  
ススキをかきわけてハツタケを探したことがあった。  
味付けしたハツタケを、炊きたてのご飯にまぜて食べた。

おとなになって、きのこに興味をもちだしたのは20代なかば。  
千葉県内ではお目にかかれないマツタケを探し続けた。  
アカマツが生えてれば歩き回ったが、当然のようにみつからなかった。  
最初の出会いは、山梨県北杜市のアカマツ林。  
時期もおそかったので、ライバルは山に入ってなかったのかもしれない。

九十九里のクロマツの海岸林には、何度も通った。  
アマタケ、ショウロ、シモコシ、ハツタケ、少しはみつかった。  
落ち葉と下草で林床は荒れていて、きのこのにはあまり魅力がない林におもわれた。  
だいぶ前に、海岸林から足は遠のいた。

息子が九十九里へ、サッカーの合宿にいったときに、ショウロをとってきた。  
息子は、ショウロをペペロンチーノに入れて食べるのが好きだ。  
今年は息子の案内で、久しぶりにショウロを探してみようか。

